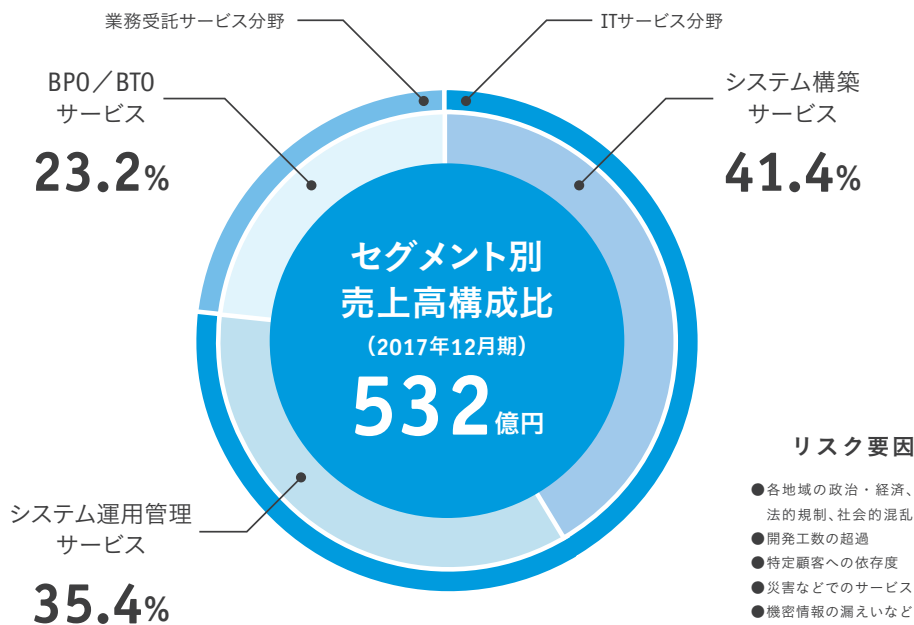


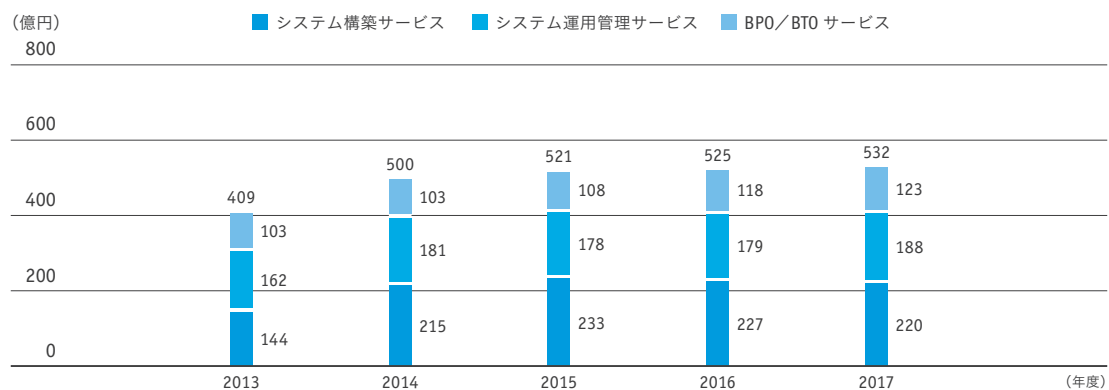
## セグメント別

CACグループの事業は、ITサービス分野として「システム構築サービス」「システム運用管理サービス」、ITと業務機能を合わせた業務受託サービス分野として「BPO/BTOサービス」を展開しています。

2017年12月期、システム構築サービスの売上高は、シンガポール子会社や国内IT分野の減収により、220億60百万円(前年度比3.1%減)となりました。システム運用管理サービスの売上高は、国内・海外ともに伸長したことから、188億79百万円(前年度比5.2%増)となりました。BPO/BTOサービスの売上高は、CRO(医薬BTO)、人事BPOサービスともに伸長し、123億28百万円(前年度比4.4%増)となりました。2013年からの推移では、BPO/BTOサービスがCRO事業の拡大に伴い、拡大しています。



セグメント別売上高

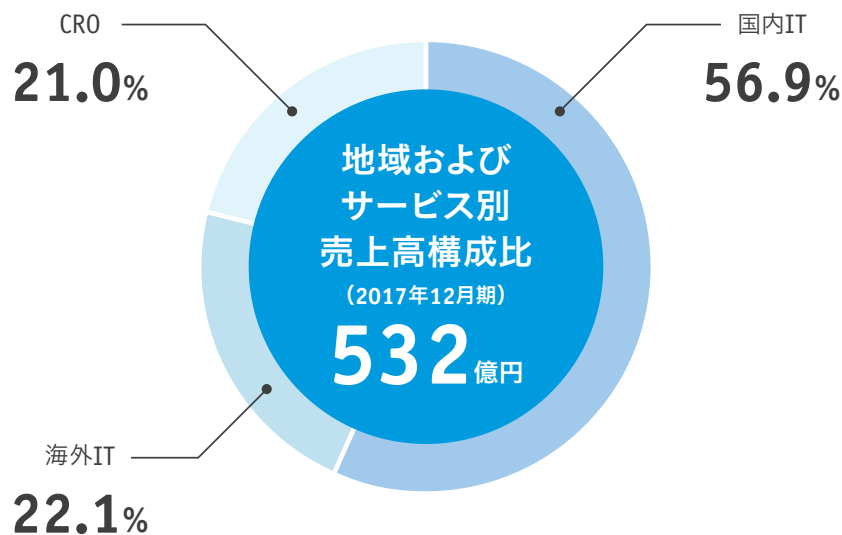


## 地域およびサービス別

CACグループでは、近年のグローバルビジネスやCRO事業の拡大により、左ページにあるセグメント別に加え、国内IT、海外IT、CROと業績を分類し、経営状態の把握をしてきました。

2018年12月期からは、新たな中期経営戦略の開始に伴い、業績報告セグメントを下記に変更し、開示してまいります。新しい業績報告セグメントは、当社グループのサービスをITとCROに分類し、ITサービスについては、事業会社の所在地に基づき国内IT、海外ITに分別しています。

2017年12月期売上高を、変更したセグメント別に見ると国内ITが6割近くを占め、続いて海外IT、CROが約20%の割合を占めています。

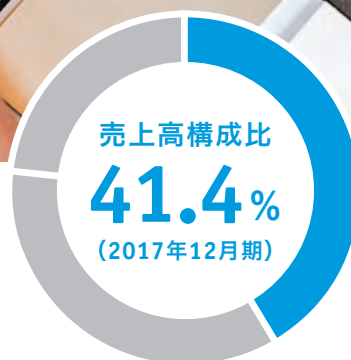


新セグメント	主な事業内容	主な事業会社
国内IT	国内子会社におけるシステム構築サービス、システム運用管理サービス、人事BPOサービスなどの提供	(株)シーエーシー / (株)アークシステム / (株)シーエーシーナレッジ / (株)CACオルビス / (株)CACマルハニチロシステムズ / (株)きざしカンパニー
海外IT	海外子会社におけるシステム構築サービス、システム運用管理サービス、保守サービスなどの提供	CAC AMERICA CORPORATION / CAC EUROPE LIMITED / 希亜思(上海) 信息技术有限公司 / CAC India Private Limited / Accel Frontline Limited
CRO	製薬企業が医薬品開発時に行う治験業務(臨床開発)や製造販売後の業務の受託・代行サービスの提供	(株)CACクロア

ITサービス分野

# システム構築サービス

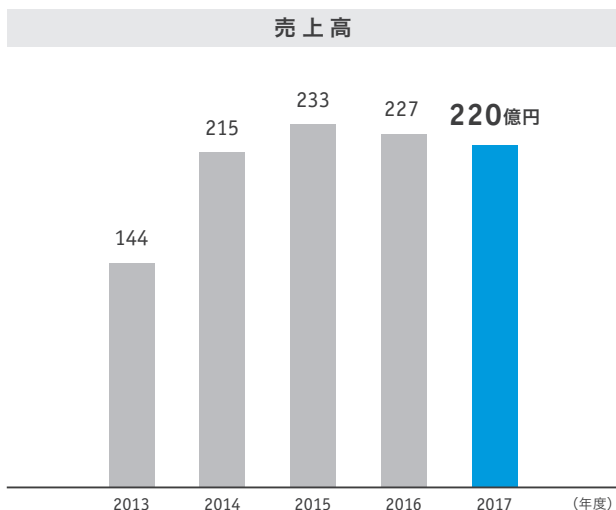
国内外で、企業情報システムに関するコンサルティング、システム開発および保守、パッケージインテグレーションなどのサービスを提供しています。



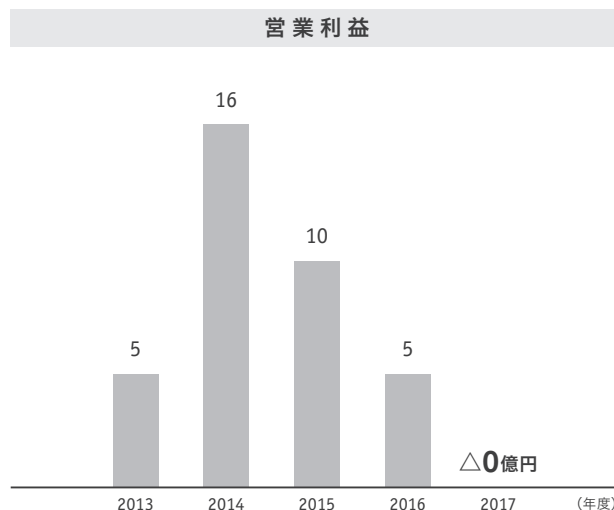
主な関係会社

(株)シーエーシー、(株)シーエーシーナレッジ、(株)CACオルビス、(株)きざしカンパニー、CAC AMERICA CORPORATION、CAC EUROPE LIMITED、希亜思(上海)信息技术有限公司、高達計算機技術(蘇州)有限公司、Accel Frontline Limited、Sierra Solutions Pte. Ltd.\*  
\*CAC Holdingsが保有していたSierra Solutionsの全株式は、2017年12月に譲渡済み

売上高



営業利益



## 業績について

インド子会社Accel Frontlineは増収となったものの、シンガポール子会社Sierra Solutionsや国内IT分野の減収により、2017年12月期の売上高は、前年度比3.1%減少の220億60百万円となりました。営業利益は、減収の影響やAccel FrontlineおよびSierra Solutionsでの営業損失発生により、22百万円の損失となりました。

2018年12月期は、デジタルテクノロジーへの取り組みによって市場の需要を取り込み、受注機会の増加による利益回復を図ります。同時にプロジェクト管理の強化を継続し、案件の不採算化を防止します。海外事業における不採算事業は切り離しを検討するとともに、インド・中国における現地受注を推進します。なお、Sierra Solutionsについて保有していた全株式は2017年12月に譲渡が完了しており、2018年12月期から同社はCAC Holdingsの連結対象外となります。

## 強みと特徴

### 海外比率が高い

当セグメント売上高の約38%は海外での売り上げ。インド、中国、アメリカ、イギリスでサービスを展開。今後はさらに海外比率が高まると予想しています。

### 新しいビジネスへの積極的な取り組み

当社グループはM&Aや投資を通じて海外の新しいビジネスを積極的に取り込み、新事業として展開をしています。例えば近年では、アメリカAffectiva社への出資および販売代理店契約締結により、感情認識AIビジネスに着手し、広告や教育といった当社グループではこれまで手掛けてこなかった分野でのビジネス展開が始まっています。

### 金融機関向けに強み

メガバンク向けの市場系、海外系システムや、信託銀行向けの年金関連システムに強みを持っています。

## 中期経営戦略

将来にわたりCACグループの足場を固めるために、事業の収益力改善に取り組みます。まずは既存の受託開発から脱却し、デジタルビジネスを成長の柱とするビジネスモデルへの変貌を目指します。国内外の新しい技術を活用したサービスや製品を開発、その横展開に積極的に取り組みます。海外事業では、巨大なマーケットであるインドおよび中国に注力し、現地ニーズに合ったソリューション開発によるIT需要の獲得や、事業再編、M&Aなどを通じ、ビジネスの安定と拡大を図ります。

また、次世代技術の研究・開発を行い、将来ビジネスの検討・構築に必要な土台を担うR&Dセンターを日本、中国、インドに設置します。このR&Dセンター間の連携を活かしてイノベーティブなビジネスモデル、ソリューションを国内外で共有し、他社に先駆けて各市場に持ち込みます。

### Affectiva社 感情認識AIのビジネス展開

CACグループでは感情認識AIを用いたビジネスを国内外で展開しています。2018年2月、シーエーシーでは動画分析サービス「心sensor(こころセンサー)」を独自開発し、サービス提供を開始しました。「心sensor」は、感情認識AIを用いて動画から人の表情を解析し、数値化します。読み取った感情を数値化したデータは、各種リサーチや商品開発、顧客満足度調査、教育現場などでの活用が期待されます。



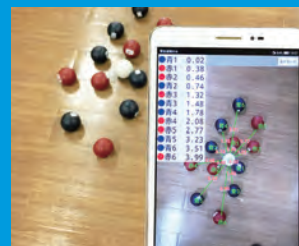
# CSV

Creating Shared Value

事業を通じた  
社会貢献

CACグループで取り組んでいる障害者スポーツ「ボッチャ」の支援活動においては、ボール間の距離を測定するAndroidアプリ「ボッチャメジャー」を開発し、競技普及の後押しをしています。

人口減や少子高齢化などの社会課題の解決はもとより、私たち個々の生活にさらなる豊かさをもたらすと言われているデジタルテクノロジーの追求を通じ、今後も様々な形で社会に貢献することを目指していきます。

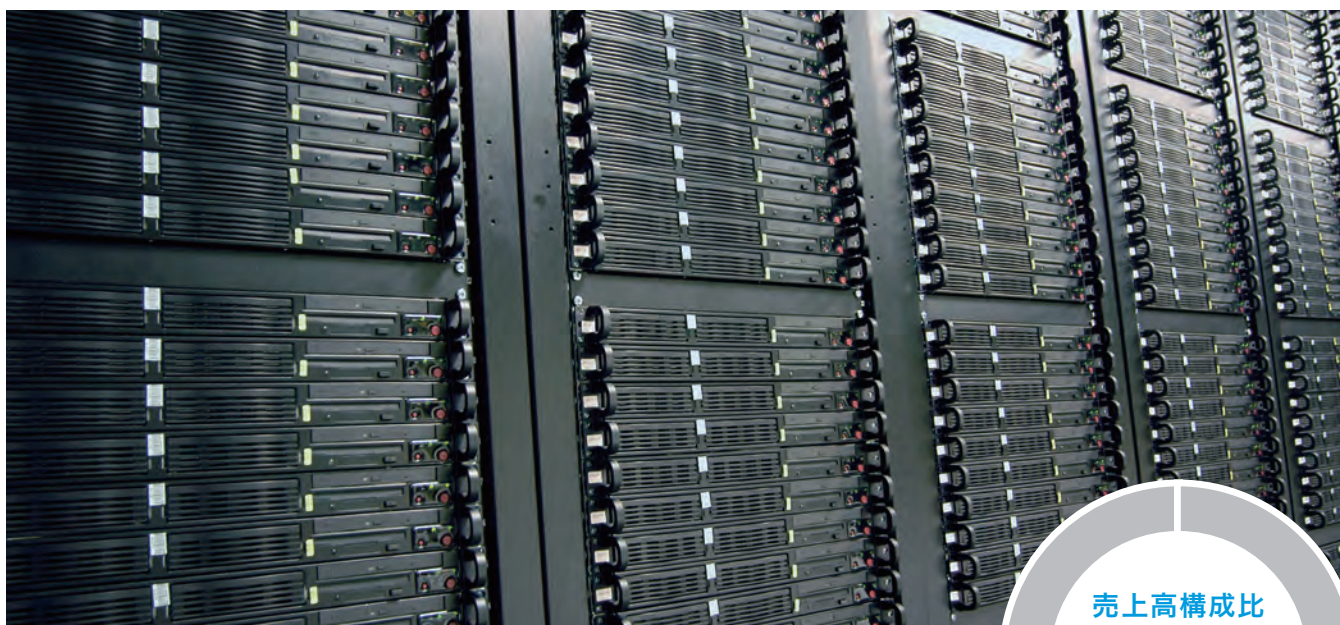




ITサービス分野

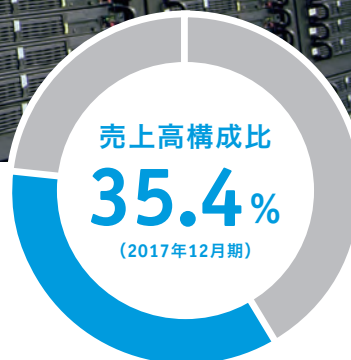
# システム運用管理サービス

運用アウトソーシングサービスのほか、データセンター、ヘルプデスク/コールセンター、セキュリティ関連、製品保証などのサービスを提供しています。

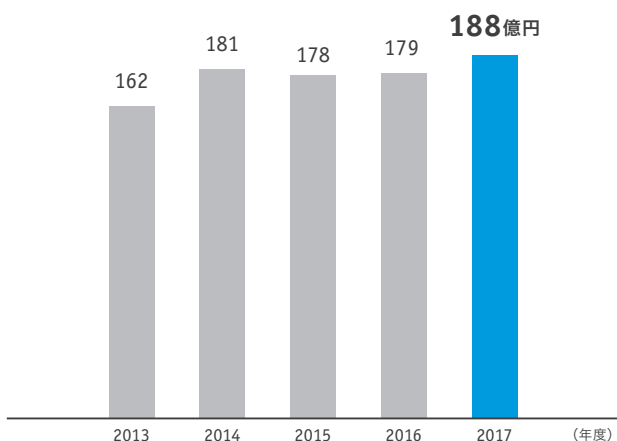


主な関係会社

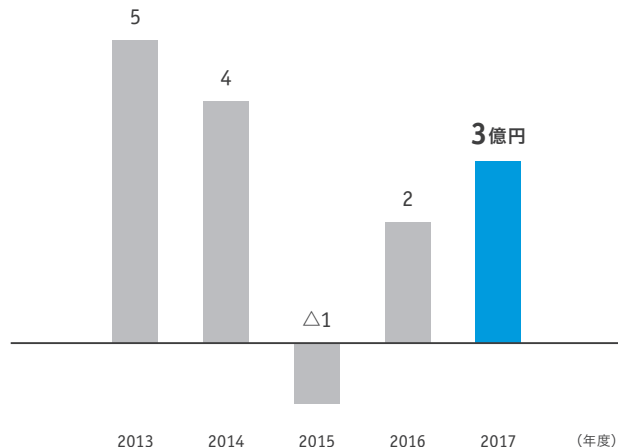
(株)シーエーシー、(株)アークシステム、(株)シーエーシーナレッジ、  
(株)CACオルビス、(株)CACマルハニチロシステムズ、(株)ハイテックシステムズ、  
CAC AMERICA CORPORATION、Accel Frontline Limited



売上高



営業利益



## 業績について

2017年12月期の売上高は、国内・海外ともに伸長したことから、前年度比5.2%増加の188億79百万円となりました。営業利益は前年度比33.3%増加の3億72百万円となりました。アマゾン ウェブ サービス(以下AWS)をはじめとするクラウドサービスなど、システム運用における新技術の導入需要が高まり、既存顧客を中心に増収増益となりました。

2018年12月期も引き続き、AWSの推進などを軸に安定した収益の確保に努めます。

## 中期経営戦略

当社グループはクラウドを使用した運用体制への移行を見据え、クラウドをベースとした運用エンジニアの育成・配置に取り組んでまいりました。特に注力しているAWS関連の有資格者(AWS認定ソリューション・アーキテクト・プロフェッショナルなど)は60名を超え、知識と経験に基づくサービスの提供を可能としています。これからも、新技術スキル保有エンジニアの育成を継続し、ビジネスニーズと技術動向を見据えた差別化可能な技術力を蓄積します。

また、グループ全体でオープンな協業機会を追求し、人的リソースの共有、グループ内の機能統合などに取り組み、より効率的かつ安定したシステム運用サービスの提供に努めます。

## 強みと特徴

### 大手製薬企業向けがサービスの起源

創業期に子会社だったアウトソーシング専門会社が当サービスの起源です。大手製薬企業もその会社へ出資しており、製薬企業へ総合的にサービスを提供しながら運用ノウハウを蓄積してきました。

### M&Aで拡大

グループ会社であるアークシステム、シーエーシーナレッジ、CACオルビス、CACマルハニチロシステムズなどは全てM&Aでグループ化してきました。

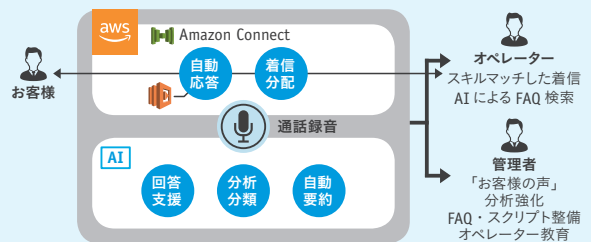
### 時代のニーズを取り込み、自らが変化する

時代のニーズを取り込み、生き残るために、新技術の導入に向けた地道な研究開発や営業活動をしています。システムを「所有する」から「使用する」時代への変化に合わせ、シーエーシーではAWSサーバー運用管理のサービス開発に注力しており、AWSより「APNアドバンスドコンサルティングパートナー」の認定を受けています。

### AWSを活用したコンタクトセンター※

シーエーシーでは、AWSやAIを組み合わせ、活用することにより、コスト削減はもちろん、業務効率や対応品質の向上を実現するコンタクトセンターを提案しています。例えば、記録された通話内容をAI(自然言語処理)により解析し、結果をFAQ作成やオペレーターの教育・選定、顧客分析、ひいては顧客ニーズの把握、自動回答などに活用します。

※コンタクトセンター：従来のコールセンターにおける電話対応業務に加え、mail、FAX、SNSなど、複数チャネルに対応する、顧客対応センター



※アマゾン ウェブ サービス、AWS、Amazon Connect は、Amazon.com, Inc. またはその関連会社の商標です。

## CSV

Creating Shared Value

事業を通じた  
社会貢献

情報システムはもはや社会のインフラと言える時代です。その用途や構造、技術は千差万別となっている中で、情報システムの運用を担う当社グループに求められるものは、いずれの環境下でも効率よく安定したサービスを提供することです。ひいては顧客企業の土台を支え、顧客が本業への注力を可能にすることで社会の発展に寄与しています。

システム運用に運用負荷とコストの削減が求められる中、シーエーシーでは50年来の経験に基づく最適かつ広範囲な運用自動化を実現し、手動による運用の極小化に取り組んでいます。また、アークシステムにおける「まるごとおまかせZabbix」では、運用監視環境の構築から運用まで、低価格、短納期、高品質でのサービスを提供するなど、運用サービスメニューの進化の追求を止めることなく、社会インフラを支えています。

業務受託サービス分野

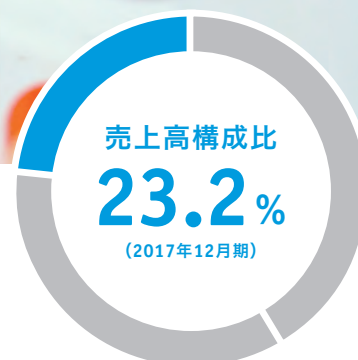
# BPO/BTOサービス

ITと業務機能を合わせた業務受託サービスの提供を行っています。  
現在当社グループでは、CRO(医薬BTOサービス)と、人事BPOサービスを提供しています。

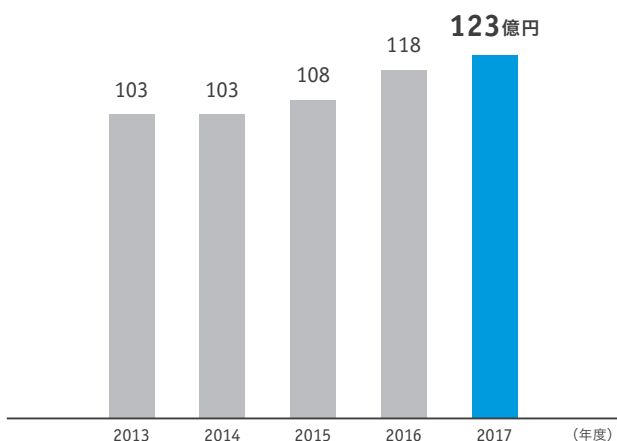


主な関係会社

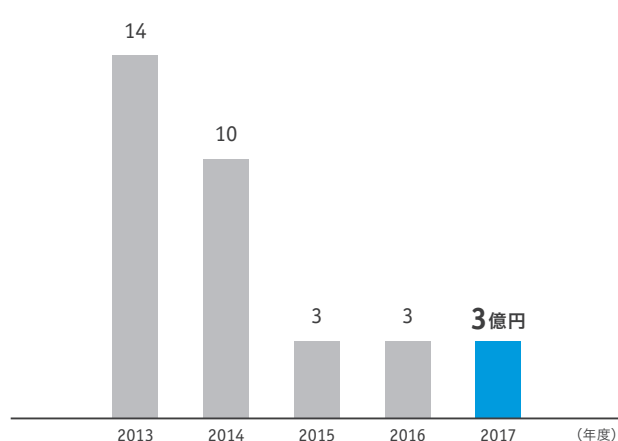
(株)シーエーシー、(株)CACクロア、  
CAC India Private Limited



売上高



営業利益



## 業績について

2017年12月期の売上高は、CRO、人事BPOサービスともに伸長し、前年度比4.4%増加の123億28百万円となりました。営業利益は販売管理費の増加で前年度比7.5%減少の3億48百万円となりました。

2018年12月期は、管理コストの見直しや低採算プロジェクトの解消などにより利益回復を見込んでいます。

## 強みと特徴

### CACクロアはCRO経験が豊富なスペシャリスト集団

CACクロアは、CROとして様々な経験を積んだスペシャリスト集団です。安全性情報管理や申請業務はもちろん、創薬・非臨床から市販後・製販後まで、医療・医薬にまつわるあらゆる業務を総合的、多角的に支援します。特に安全性情報管理業務と申請業務における実績は国内随一と自負しています。

### あらゆる人事管理業務を請け負える

人事BPOサービスは一般的な給与計算などの業務受託に加え、人事制度の運用や労務管理、福利厚生管理、その他人事業務の受託を行っています。

## 中期経営戦略

CROにおける主要顧客である製薬業界では、薬価の引き下げやジェネリック薬品の台頭、近年の法規制や、コストの上昇などを受け、製薬会社を取り巻く環境が厳しくなりつつあります。また、新薬開発の難度上昇も加わり、製薬におけるアウトソーシングの需要は高まり、更には治験環境の国際化を受けて、CRO市場は拡大し受託件数も増加しています。

この市場拡大に追随し、グローバル対応力を強化するため、CACクロアでは中国やインドでのCRO事業の本格稼働に注力します。また、化合物共有ライブラリー事業による創薬ビジネス参入など、周辺事業の拡大による安定収益の確保と成長も目指します。あわせて、人件費や管理コストの適正化、不採算プロジェクト撲滅などの施策継続により、利益の回復を図ります。

## CROとは

CROとは製薬企業が医薬品開発時に行う治験業務(臨床開発)や製造販売後調査における様々な業務を受託・代行する事業です。CACクロアは「安全性情報管理」「データマネジメント」「統計解析」などをはじめ、全てのCROソリューションを提供しています。

### 新薬開発の流れとCROの業務内容

基礎研究  
2~3年



非臨床試験  
3~5年



### CRO

臨床試験  
3~7年



第Ⅰ相試験  
↓  
第Ⅱ相試験  
↓  
第Ⅲ相試験

承認審査



製造販売後調査  
4~10年



CSV

Creating Shared Value

事業を通じた  
社会貢献

CACクロアはBPO/BTOサービスの売上高90%以上を占めるCRO事業を担い、製薬会社のパートナーとして、人々の健康の維持、管理、増進に貢献しています。

現在取り組んでいる化合物共有ライブラリー事業は、製薬会社が個別に保有・保管している化合物ライブラリー(医薬品探索研究用化合物)をCACクロアが提供する設備およびプラットフォームに集約管理するサービスです。このサービスでは、集約された化合物ライブラリーを共有ライブラリーとして製薬会社やアカデミア、バイオベンチャーに向け、広く利用を促進します。

高額な機器やコストを伴う化合物ライブラリー管理業務の提供は、創薬事業の促進に大きく寄与するとともに、産産連携や産学官連携も実現します。ひいては国内の創薬体制が強化され、日本発の革新的な医薬品が提供されることを目指し、当事業を推進しています。